

**製品名: FEN-1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab10901**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FEN1
別名	FEN1; RAD2; Flap endonuclease 1; FEN-1; DNase IV; Flap structure-specific endonuclease 1; Maturation factor 1; MF1; hFEN-1
遺伝子 ID	2237.0
SwissProt ID	P39748
免疫原	抗血清はヒト FEN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 86-135

**背景**

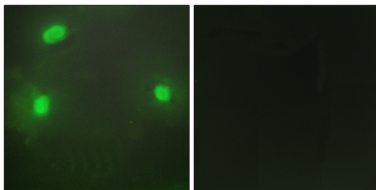
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、DNA 修復において 5'オーバーハングフラップを除去し、ラギング鎖 DNA 合成にお

いて岡崎断片の5'末端を処理します。ロングパッチ塩基除去修復において、このタンパク質と AP エンドヌクレアーゼ1 は直接的に物理的に相互作用し、基質へのタンパク質の協調的なローディングを実現することで、基質をある酵素から別の酵素へと渡します。このタンパク質は XPG/RAD2 エンドヌクレアーゼファミリーに属し、無細胞 DNA 複製に必須の 10 種類のタンパク質の 1 つです。DNA 二次構造は、この遺伝子によってコードされるタンパク質による結合と切断の両方に必要なフラップの 5'末端を隠蔽することにより、特定のトリヌクレオチド反復におけるフラップ処理を長さ依存的に阻害することができます。したがって、二次構造はこのタンパク質の保護機能を阻害し、部位特異的なトリヌクレオチド伸長を引き起こします。補因子: サブユニットあたり 2 個のマグネシウムイオンを結合します。これらはおそらく酵素によって触媒される反応に関与しています。基質結合後、さらに 3 つ目のマグネシウムイオンに結合する可能性がある。機能: DNA ポリメラーゼが下流の岡崎フラグメントの 5'末端に遭遇した際に置換合成によって生成される 5'オーバーハングフラップ構造を切断するエンドヌクレアーゼ。また、ニッキングまたはギャップを有する二本鎖 DNA に対して 5'→3'エキソヌクレアーゼ活性を有し、RNase H 活性を示す。PTM: EP300 によってアセチル化される。アセチル化はエンドヌクレアーゼ活性とエキソヌクレアーゼ活性の両方を阻害する。アセチル化は DNA 結合活性も低下させるが、PCNA または EP300 との相互作用には影響しない。類似性: XPG/RAD2 エンドヌクレアーゼファミリーに属する。FEN1 サブファミリー。サブユニット: PCNA と相互作用する。C 末端ドメインは EP300 に結合する。PCNA と EP300 の両方に同時に結合することができる。

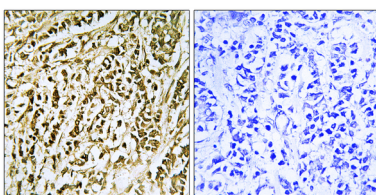
## 研究分野

DNA 複製、塩基除去修復、非相同末端結合

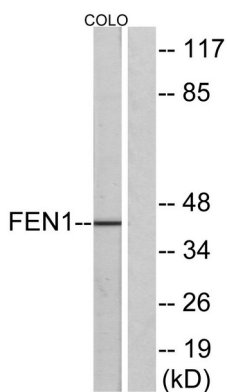
## 画像データ



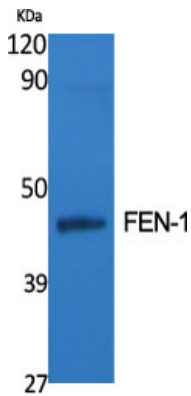
FEN1 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



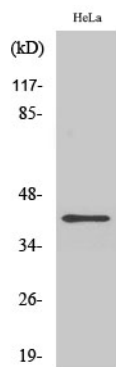
FEN1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



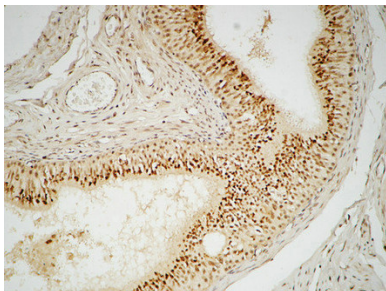
COLO205 細胞ライセートの FEN1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



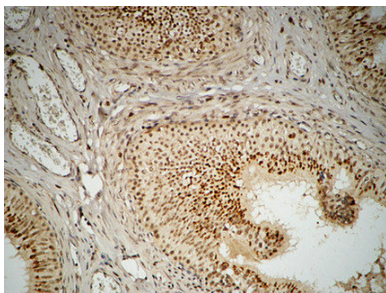
1: 500 に希釈した FEN-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



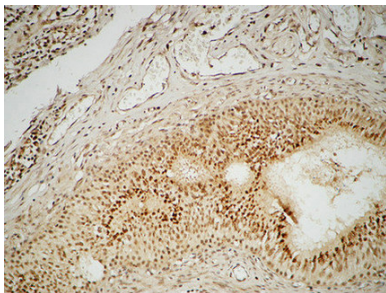
FEN-1 ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた HuvEc 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト精巣の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。

